

平成17年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 水域の生態系保全を目的としたGISデータベースの構築と活用に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○データベース構築の変数を増やす。 ①生活排水の流入、②ゴミの不法投棄、③景観情報（写真）</p> <p>○景観情報については、堰の様子など評価尺度を決めてポイント化する。</p> <p>○保全目標生物としてアユを選定した過程を明確化し、他の生物、他の流域でのGISによる環境保全の際の参考となるようにする。</p> <p>○研究成果を随時、論文等で取りまとめる。</p>	<p>○ゴミの不法投棄については、これまでの情報を収集して概況を把握するとともに、実地調査により現況把握を行う。生活排水の流入、ゴミの放置状況は、景観情報の現地写真撮影により把握を行いたい。</p> <p>○景観情報については、現地調査時に河川の様子を撮影した写真を地図上に配置することからはじめ、写真から得られる情報項目についての検討を行う。</p> <p>○今回の研究において、アユはつぎの特徴があることから、協働する市民団体との話し合いにより保全目標生物として設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自然環境の変化に対して敏感である。 ②金目川において、天然に生息する。 ③年魚であり、年毎の環境変化による増減が確認できる。 ④市民の保全目標として親しみがある。 ⑤淡水性両側回遊魚であり、堰等による河川の河口からの連続性の影響を評価できる。 <p>以上のように、本研究における保全目標生物を設定した過程は明確に記録に残し、他の流域で保全目標生物を設定する際の参考となるようにする。</p> <p>○これまでも成果の一部については水環境学会年会において学会発表を行っている。今後、論文等としても成果を発表していく。</p>